

計算の理論 I

- 正則表現 -

月曜3校時
大月 美佳

雑談

☞ 掲示板
<http://www.cs.is.saga-u.ac.jp/lecture/automaton/sylpheed/>

☞ その他
 ミニテスト: もうちょっと待って

今日の講義内容

1. 前回の復習
 1. 動作を含むNFAからNFAへの変換
2. 今日の新しいこと
 1. 正則表現
 1. 正則表現を使うと嬉しいこと
 2. 前準備
 3. 正則表現の定義
 4. 正則表現の例

-動作なしNFAと -動作ありNFAの等価性 (p.34 定理2.2)

-動作ありNFA: $M(Q, \Sigma, \delta, q_0, F)$ が
 -動作なしNFA: $M'(Q', \Sigma, \delta', q_0, F')$ で模倣できる (定理2.2:証明 帰納法)。

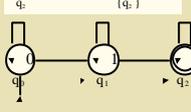
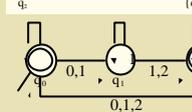
$F' = \{q_0\}$?-CLOSUREがFの元を含むとき
 $F' = F$ そうでないとき

$\delta'(q, a) = \delta(q, a)$ ($q \in Q, a \in \Sigma$)

-動作ありNFAを模倣する -動作なしNFAの例 (p. 36 例2.9)

	0	1	2	
q_0	$\{q_0\}$			$\{q_1\}$
q_1		$\{q_1\}$		$\{q_2\}$
q_2			$\{q_2\}$	

	0	1	2	
q_0	$\{q_0, q_1, q_2\}$	$\{q_1, q_2\}$	$\{q_2\}$	
q_1		$\{q_1, q_2\}$	$\{q_2\}$	
q_2			$\{q_2\}$	

-動作を含むNFA NFA 例 1

☞ -動作を含むNFA
 $(\{q_0, q_1, q_2\}, \{0, 1\}, \delta, q_0, \{q_2\})$
 は下表

	0	1	
q_0	q_0, q_1	-	q_2
q_1	q_2	q_0, q_1	-
q_2	q_0, q_1	-	q_1

例1 -CLOSURE

	0	1	
q ₀	q ₀ , q ₁	-	q ₂
q ₁	q ₂	q ₀ , q ₁	-
q ₂	q ₀ , q ₁	-	q ₁

-CLOSURE	
q ⁰	q ⁰ , q ¹ , q ²
q ¹	q ¹
q ²	q ¹ , q ²

-動作を含むNFA NFA 例2

≡ -動作を含むNFA
 (({q₀, q₁, q₂}, {0, 1}, ε, q₀, {q₂})
 は下表

	0	1	
q ⁰	q ⁰	-	q ¹
q ¹	-	q ⁰ , q ²	q ⁰
q ²	q ¹	q ²	q ⁰

例2 -CLOSURE

	0	1	
q ₀	q ₀	-	q ₁
q ₁	-	q ₀ , q ₂	q ₀
q ₂	q ₁	q ₂	q ₀

CLOSURE	
q ⁰	q ⁰ , q ¹
q ¹	q ⁰ , q ¹
q ²	q ⁰ , q ¹ , q ²

今日の新しいこと

≡ 正則表現

1. 正則表現を使うと嬉しいこと
2. 前準備
3. 正則表現の定義
4. 正則表現の例

正則表現を使えると嬉しいこと

≡ パターンマッチにしょっちゅう使う

- UNIXのシェル
 - sh, csh, ksh, tcsh, bash
 - ファイルの名前
- UNIXのコマンド、プログラミング言語
 - egrep, awk, sed, perl
 - ファイルの中の文字列の処理

Bash のファイル名展開

```
% ls
aaa ,aab ,aac ,aba ,aca ,ada ,abc ,bbb ,bcb

% echo a[abc]a
aaa aba aca
```

Perl での処理

Sun May 27 21:51:40 JST 2001

$s/\$w+(\$w+)(\$d\$d)\$d\$d:\$d\$d:\$d\$d\$w+(\$d+)/$ Today is ¥1 ¥2, ¥3./;

Today is May 27, 2001.

前準備 その1 (記号列の集合)

- ⌘ アルファベット
- ⌘ 上の記号列 *
- ⌘ *の部分集合 L, L, L

前準備 その2 (記号列の集合の演算)

⌘ $L_1 L_2 = \{xy \mid x \in L_1, y \in L_2\}$ 接続

前準備 その3 (記号列の集合の演算)

$L^0 = \{\epsilon\}$

$L^i = L L^{i-1} \quad (i \geq 1)$

前準備 その4 (Kleene閉包)

$L^* = \bigcup_{i=0}^{\infty} L^i$ LのKleene閉包 (または単に閉包)

closure closure

前準備 その5 (正閉包)

$L^+ = \bigcup_{i=1}^{\infty} L^i$ Lの正閉包

positive closure

(1+10)*の性質

- 1で始まり、連続した0を含まない列が空列から成る集合
帰納法で示す。

$$(1+10)^* = \{1, 10\}^* = \bigcup_{i \geq 0} \{1, 10\}^i$$

$$i \geq n \text{ のとき } \bigcup_{i \geq 0} \{1, 10\}^i \text{ が}$$

1で始まり連続した0を含まない列が空列のみから成るためには
 $\{1, 10\}^0, \dots, \{1, 10\}^n$ がそれぞれ
連続した0を含まない列が空列のみからなっていればよい。

帰納法での証明

- $i \geq 0$ のとき、 $\{1, 10\}^0 = \{\epsilon\}$
- $i \geq 1$ のとき、 $\{1, 10\}^1 = \{1, 10\}$
で、1で始まり連続した0を含まない列のみを含む。
- $i \geq n$ のとき、
 $\{1, 10\}^n$ が $\{1x_1, \dots, 1x_n\}$ のように
1で始まり連続した0を含まない列のみを含む
とすれば (x_1, \dots, x_n) は連続した0を含まない列、
 $i \geq n+1$ のとき、
 $\{1, 10\}^{n+1} = \{1, 10\} \{1, 10\}^n = \{11x_1, 101x_1, \dots, 11x_n, 101x_n\}$
となり、1で始まり連続した0を含まない列のみを含むようになる。
よって1, 2, 3より、
 $\{1, 10\}^*$ は1で始まり連続した0を含まない列が空列のみを含む。

おまけ

- 正閉包に対応する正規表現

$$rr^* = r^+ = \bigcup_{i \geq 1} r^i$$

$$00^*11^*22^* = 0^+1^+2^+$$

$$\{0, 00, \dots\} \{1, 11, \dots\} \{2, 22, \dots\}$$

$$\{012, 0122, 0112, 01122, 0012, 00122, 00112, 001122, \dots\}$$

$$0^+1^+2^+$$

今日のミニテスト

- ミニテスト
 - 教科書 資料を見ても良い
- 資料、ミニテストがない人は前へ
- 提出したら帰ってよし
- 次回
 - 有限オートマトンと正規表現の透過性